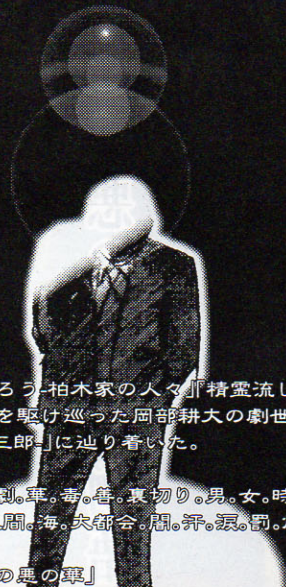


「色悪」(いろあく)とは歌舞伎で顔・姿が美しい敵役のことである

— 悪の限りを尽くし三郎 —



「真田風雲録」「がんばろう! 柏木家の人々」「精霊流し」「長崎街道物語-古渡り峠」。2000年を駆け巡った岡部耕大の劇世界はついに「色悪-悪の限りを尽くし三郎」に辿り着いた。

衝撃。テンポ。喜劇。悲劇。華。毒。誓。裏切り。男。女。時代。犯罪。恋。夢。挫折。言葉。嘘。真実。人間。海。夫婦会。罰。汗。涙。罰。爆笑。嘲笑。本音。

岡部耕大が挑む「昭和の悪の華」

「悪の限りを尽くし三郎」と異名を取った男がいた。男は敗戦の年、昭和20年に九州の西の果て炭坑街で生を受けた。父は分からない。酒乱の母は男が13歳の冬に病死した。世は「ミッドブーム」で沸いた年である。15歳になった男は可愛がってくれた隣家の女子高生古賀陽子を騙し、刺し、貯金を奪って逃げた。男の流転の生活が始まった。男は容貌と知性に恵まれていた。「60年安保」の騒ぎを遠くに聞きながら男は夜霧の関門海峡を越えた。男は関西にいた。巧みな弁舌。男は女を翻弄した。男が翻弄する女は母にそっくりであった。古賀陽子にそっくりであった。男は嘘と偽りの経歴を重ねた。日本は「高度成長期」に沸き立っていた。多発する凶悪犯罪と事故。「東京オリンピック」「期待される人間像」。男は「昭和元祿」の泰平ムードを満喫していた。そしてついに大犯罪へと手を染める。待っていたのは大どんでん返しであった……。

「悪の限りを尽くし三郎」とは一人の男の異名ではない。



中村 まち子



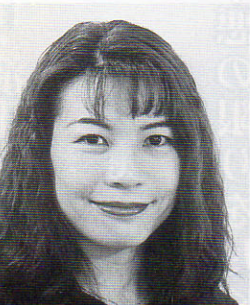
高橋 広司



花山 らら



見上 裕昭



城 マリ



小池 雄介



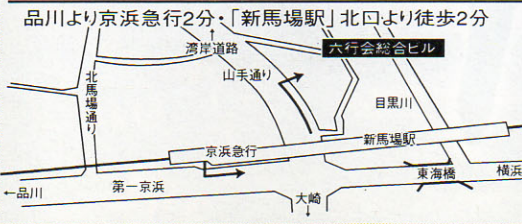
茅根 直美



服部 桂吾

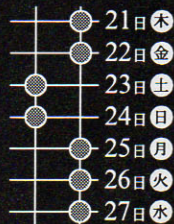
六行会ホール TEL.03(3471)3200

東京都品川区北品川12-32-3



TimeTable

14:00 18:30



問合わせ・前売り 岡部企画 044-933-9754

【日時指定】
料 金(税込) 一般/前売:3,000円 当日:3,500円
高校生以下/前売:2,000円 当日:2,500円

チケット販売開始は11月20日(月)

